

新基地建設反対名護共同センターニュース

復帰50年の県民大会開催を決定!

4月30日 奥武山陸上競技場で



県民大会要項

大会名称
復帰50年・基地のない平和で誇りある豊かな沖縄をめざす県民大会「屋良建議書は実現されたのか」(仮称)
大会趣旨
2022年5月15日、沖縄は復帰して50年を迎える。

先の悲惨な戦争の結果、自らの意志に反し、本土から切り離され、27年間米国の施政権下にあった沖縄は多くの犠牲を払い、苦難の道を歩んできた。虐げられてきた県民は本土に復帰することを願い、闘争し、また日本政府は「核抜き、本土並み」を約束し、1972年5月15日に復帰した。

県議会と党4会派のよびかけで4月30日に那覇市の奥武山陸上競技場で開催する「復帰50年・基地のない平和で誇りある豊かな沖縄をめざす県民大会」屋良建議書は実現されたのか」の実行委員会結成総会が9日、那覇市内で開かれました(写真)。総会では、大会要項(別項)や実行委員会の体制などが確認されました。

役員体制

【顧問】赤嶺政賢、新垣邦男、伊波洋一、高良鉄美、糸数慶子、仲里利信

【共同代表】平良亀之助、石川元平、元山仁士郎、他

1万人以上の参加や離島の開催もめざします。コロナの感染状況も踏まえ開催方式を検討します。

県民の願いは、平和憲法のもとで基本的人権の保障、基地のない平和な沖縄であり、地方自治権の確立や県民本位の経済開発等であった。

しかし、県民の願いは果たされることなく、日本国土の0.6%しかない沖縄に、約70%もの米軍専用施設が集中し、さらには、県民投票で示された埋立反対の民意を無視し、辺野古新基地建設が強行されるなど断じて許されるものではない。子どもの貧困、低い県民所得、ザル経済といわれる国発注工事の本土企業への還流等、いまだに多くの課題が山積している。

復帰50年を迎えるにあたり、沖縄の様々な課題や現状、県民の思いを国内外に訴えるため、「復帰50年・基地のない平和で誇りある豊かな沖縄をめざす県民大会」屋良建議書は実現されたのか」を開催する。

大会日時

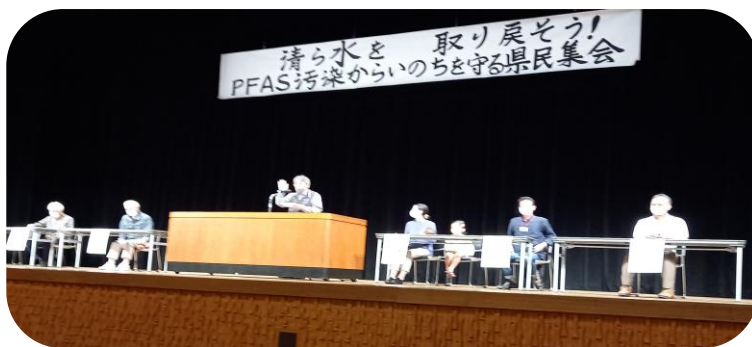
22年4月30日午後2時~3時

開催場所

奥武山陸上競技場

PFAS 汚染からいのちを守る県民集会開く

沖縄の米軍基地周辺の地下水、河川水などから高濃度の有機フッ素化合物(PFAS)が検出されている中、「PFAS 汚染からいのちを守る県民集会」が10日、宜野湾市内で開かれ約400人の市民が参加しました(写真)。ジョン・ミッチェル氏が講演でPFASの毒性や米国と日本政府の対応の違い、血液検査の重要性を報告しました。基地周辺の住民が取り組みや思いを交流。在日米軍や日本政府などに対し、実態調査と県民の健康調査の実施などを求める決議を採択しました。



共産党都議や区議がゲート前で連帯

東京都の足立区選出の共産党・斉藤まりこ都議と足立区議4人がゲート前で座り込み、「長い間、不屈にたたかう沖縄県民のみなさんから学び、戦争のない日本と世界をめざし共にがんばります」などと全員がスピーチ(写真)。この後、同都議らは抗議船に乗り、K8護岸付近から工事現場を視察しました。

サンゴが生息する海へのK8護岸延長工事を中止せよ!

へり基地反対協が
防衛局に要請行動

へり基地反対協議会の仲本眞事務局長らが6日、沖縄防衛局に辺野古新基地工事の中止などを要請しました。反対協のダイビングチームが3月2日、K8護岸周辺で人為的に切り取られ、藻が生えたサンゴを発見。1カ月ほど放置されていたと見て防衛局に経緯を質問し、サンゴが多く生息するK8護岸の延伸工事が即時中止などを求めました。

防衛局の担当者は「そのサンゴは当日に採捕した物をやむを得ず一時的に置いたもので翌日にはすべて移植した」とし、工事を着実に進めていくなどと回答。協議会は納得できない回答は得られなかったとして、今後も要請を続けることにしました。

「サンゴを殺すな」とコール
要請終了後、海上チームのメンバー約30人が防衛局前で「サンゴを殺すな!」「違法工事を直ちに中止を」とコールを上げました。



防衛局玄関前でコールする海上チームのメンバー